J. Jpn. Soc. Soil Phys.
土壌の物理性
No. 128, p.55 ～ 56 (2014)

資　料
Miscellaneous

世界土壌科学会議（WCSS）に参加して

百瀬みずき [1]

2014 年 6 月 8 日 ～ 13 日にかけて韓国の済州島で開催された World Congress of Soil Science（WCSS，世界土壌科学会議）に，6 月 11 日 ～ 13 日の 3 日間参加しました．私は 12 日の Soils, Land Use and Heat セッションにて，「Effect of land use change on soil physical properties of disadvantageous cultivated areas」というタイトルでポスター発表をしてきました．

発表内容は，耕作放棄が深刻な問題となっている長野県富士見町神戸集落の中山間地域の農地を対象に，維持管理形態の違いが土壌の物理性に与える影響をまとめたものです．対象地域では維持管理形態には大きく分けて三つの形態があり，水田や畑といった，耕作を行っている耕作地，草刈りや簡単な耕起のみを景観保全等を目的に定期的に行っている，管理のみ農地，そして，全く人の手が加えられていない耕作放棄地があります．2012 年から，これらの農地において土壌の物理性について調査を実施しています．これまでの調査の結果，人為の加えられていない「耕作放棄地」では団粒構造が発達しており，透水性が増し，土壌硬度が比較的低くなる一方で，「管理のみ農地」では定期的に草刈り等の人為が加えられていることで，土壌が締め固められ，土壌硬度が比較的高く，団粒構造の発達が妨げられ，透水性が低くなっているなど，土壌の物理性の観点からは好ましくないことがわかりました．しかし，耕作放棄をすることで近隣の耕作地に獣害や病虫害を誘発する恐れがあるため，これらを防ぐために，耕作者の高齢化などにより耕作を行えない農地では管理のみ実施する必要性もあります．そのため，今後の対策として，中山間地域での土地利用計画を農地一筆ごとではなく，集落単位で実施し，耕作放棄地を山側に集めるなどの対策が必要ではないかと考えます．

国際学会は初めての参加ということもあり，とても緊張しながら現地へ赴きましたが，到着した 11 日は学会主催の済州島観光ツアーが催されており，会場は薄暗く，受付さえ実施されていない状況で出鼻をくじかれてしまいました．次の日，ポスター設置のため，朝一で会場入りすると，前日の薄暗かった雰囲気とは全く異なり，明るく，活気が溢れており，とても圧倒されました．ポスターを設置した直後から数人の参加者の方と研究内容についてお話をさせてもらうことができ，学会で発表している実感が湧いてきたと同時に緊張も高まってきました．その後口頭発表を聞きましたが，ポスターセッションのことで頭がいっぱいで，内容があまり頭に入ってきませんでした．

ポスターセッションの時間となり，ポスター会場へ行くと，なんと，私のポスターにベストポスター賞に選ばれたことを示すステッカーが貼られていました．間もなく，喜びに浸る余裕もなく，ステッカーの効果もあり，多くの来場者の方が私のポスターの前に集まり，質疑応答に追われましたが，日本人をはじめ，多くの外国の方にも研究の成果を伝えることができ，様々な意見やコメントを頂くことが出来ました．その中で，日本では多くの中山間地域で小規模な農業が行われていますが，海外では平地での大規模な農業が行われている地域も多いため，中山間地での農業について疑問を持つ外国の方が多かったのが印象的でした．なぜ，中山間のような傾斜があり，条件が不利な場所で，しかも小規模に農業をやっているのか，そして，そこを保全していく意味とは何かという根本的な問題を改めて考えさせられました．一方で，そんな条件不利な場所でも農業が行われ，ある程度の収穫を得ることが出来るのは，世界的に見ても日本の土壌や水環境が豊かであるためということを再認識しました．日本の方々にも，景観保全のために多くの地域で



Photo. 1　ベストポスター賞 受賞ステッカー．

[1] 東京農工大学大学院農学研究院
2014 年 10 月 30 日受稿　2014 年 11 月 4 日受理

実施されている草刈り等の管理のみを行う農地保全が土壌の物理性に悪影響を及ぼす可能性があるということを伝えることで，今まで，問題視されていなかった管理のみ農地の維持管理の方法について知ってもらうことが出来ました．

全てのセッションが終了した後は，日本から来ていた同じ土壌物理を専門とする他大学の教授や学生の方と夕食を食べに行きました．日本での学会等でお会いしたことがある方もいらっしゃいましたが，ゆっくりとお話をする機会は初めてだったので，とても新鮮でした．特に，同じ専門分野を学ぶ女学生と研究のことや，研究室生活のことなどを話すことで，刺激を受けると同時に，仲を深めることができ，とても実りある時間となりました．韓国料理は私自身辛いものが苦手なので食べられない物も多かったのが残念ですが，韓国風のお刺身がとても気に入りました．何より，キムチなどの無料で付いているお惣菜の品数の多さに驚きました．

最終日は会場付近を散策してから会場に向かいました．滝を三つ見学できる散策ルートを歩いたのですが，途中で道を間違え，一番小さい滝を一つしか見ることが出来ず残念な結果となりました．会場へ戻って後に，空港に向かう時間となり，私の初の国際学会は幕を閉じました．

今回，WCSS に参加し，ポスター発表をしたことで，国内の学会とはまた一味違う環境で研究発表を行うことができ，新たな課題や，多くの刺激を得ることができ，さらにはベストポスター賞をいただいたことにより，研究に対する意欲が増すと同時に責任感や自信も増しました．地域に入っての調査では，農地に入っての調査を承諾していただくために，各農地の利用者の方々に依頼をしに行くところから始まり，思い通りにいかないことも多かったですが，現場の農家さんの意見や考えを直接聞くことができ，学内ではなかなかできない貴重な体験をすることができました．

最後になりますが，調査に協力いただいた富士見町神戸集落の皆さん，調査にあたって様々なアドバイスや地域住民の方を紹介していただいた小林市子さん・寛人さんご夫婦，土壌試料採取を手伝ってくれた研究室の先輩・後輩の皆さん，それから国際学会発表の後押しをしてくれた東京農工大学の斎藤・中島両先生に心より感謝いたします．

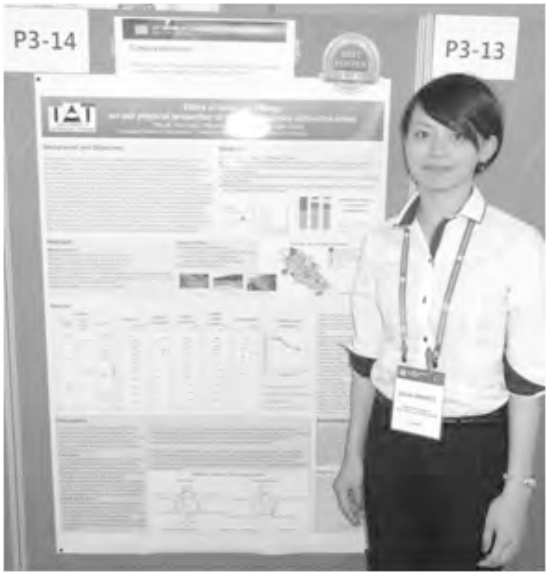


Photo. 2 ポスター前にて．